

# 営業所からのお便り (7)

## 旭川営業所からの紹介： 一手間加えたバンカーサイロの詰め方

今回は、旭川営業所より「一手間加えたバンカーサイロの詰め方」について、ご紹介いたします。

数年前の穀類高騰を受けた配合飼料の高騰を経験し、近年は、自給飼料の重要性が見直されてきています。また、最近では、ロシアが小麦の輸出を止めたことで、それ以外の穀類の高騰も懸念されています。手間ひま掛けて作った自給飼料の廃棄量を少しでも減らすよう、生産者の皆様は、サイレージ調製等には細心の注意及びご努力をされている事と思います。

そこで、こんな調製方法はいかがでしょうか。今回、ご紹介するのは空知管内にあるK牧場です。

このK牧場は現在、経産牛頭数約70頭、搾乳牛頭数54頭、子牛及び育成牛約50頭を飼養しています。また、草地はチモシー、ルーサン、オーチャード併せて約50町歩で採草用のみで、乾草とバンカーサイロ3本に詰め込みます。

さて、ここからが本題です。

まずは、サイロ詰めの基本原則の中に「速やかな密封」というのがあったと思います。つまり、できるだけ追い詰めを避け、嫌気状態を速やかに作ってやる事で、乳酸生成量の低下や酪酸、カプロン酸などの増加を抑えることが重要という事です。

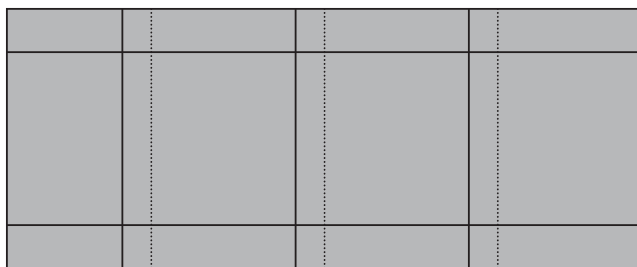
実際は、いかがでしょうか？今年のように、刈取時期に雨が深い年は特に、1本のバンカーサイロを詰め終わるのに時間が掛かかる事もあるのではないのでしょうか？サイロ詰めの基本原則は重々承知、だけど中々うまくいかない。これが現実だと思います。

今年、このK牧場ではある取り組みに挑戦しました。それは、これまで1枚として使っていたスタックシートを分割して、材料草が空気に触れる時間をできるだけ少なくしようとしてしました。

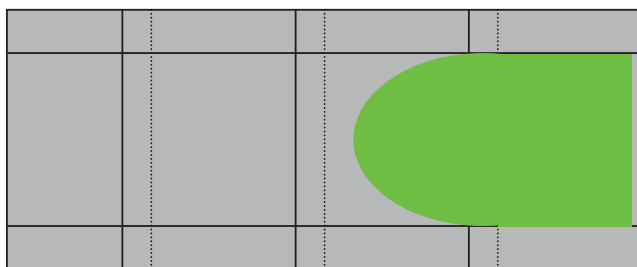
底面には通常通り、1枚物のシートを敷き、側面(壁側)から上部に掛けるシートを分割して使いました。

詳しくは図をご覧ください。

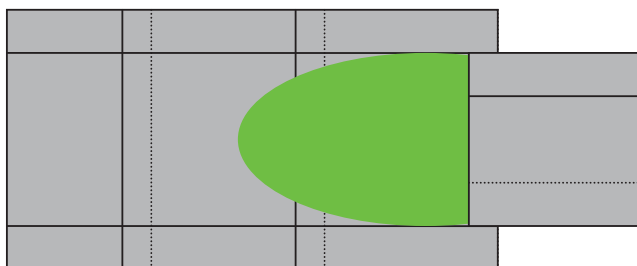
詰込み前の状態 (灰色部分はシート)



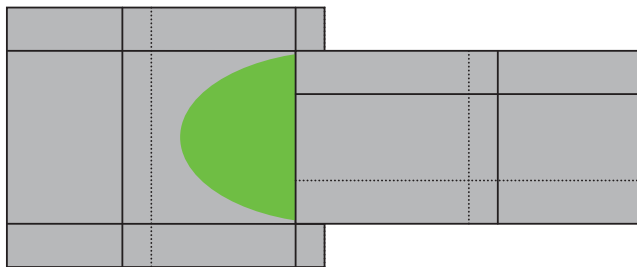
通常通り、サイロ詰め作業を行います (緑の部分が草)。1枚目のシートの幅まで、材料草を壁の高さ(約2m)まで積み上げていきます。



1枚目のシートまで2m積み上がったなら、シートを掛けます。



次は、2枚目のシートの幅まで・・・と繰り返していきます。





全てのシートを掛け終わったら、最後に一枚物のシートを上から掛けて、タイヤを載せたら完了です。

次にある写真が正面と後ろから見たものです。



このサイロは幅7m、長さ33m、壁の高さ2.2mで、使ったシートは9m×50mです。このシートを7等分し(1枚が9m×約7m)横向きに使用しています。そして、分割したシートを片側で4枚ずつ使用しています。ここには、約20町歩分の牧草が入っています。

例年、このサイロの作業日数は8～9日間を要しています。これは冬場を凌ぐための自給飼料で、除雪作業を軽減するために屋根を付けているため、品質が落ちても代替はありません。そのため、廃棄量を減らし、少しでも高品質な飼料にしたいと数年前から考え、今年実行されました。

見ていただいておりますの通り、まだこのサイロは開封されていません。ここでは結果をご報告できませんが、Kさんはこのサイロの開封を楽しみにしていらっしゃいます。

地域によっては、コントラクターや共同作業によって所有している自走式のハーベスタ等を利用して収穫作業を行うため、サイロ詰め作業にあまり時間が掛からない場合もあるかもしれません。しかし、今回のように大型収穫機やコントラクター等が無い場合には、「収穫前の一手間」によって大切なエサの廃棄量を減らし、できるだけ高品質な飼料を作るといえるかがでしょうか。

今回の一手間はほんの一例に過ぎないと思います。十人十色で様々な一手間がたくさんあるはずです。弊社営業マンは、そんな知られざる一手間を発掘し、良い情報については、できるだけ多くの生産者の方々に伝えていきたいと思っております。

最後になりますが、お忙しい中この記事のためにご協力いただきましたK牧場の皆さんに対し、厚く御礼申し上げます。

(旭川営業所 宮地 徳正)